

No	質問 (Q)	回答 (A)
① 中学校の今後および単学級・部活動・統合検討に関する質問と回答		
1	①アンケート結果 (83%、賛否が僅差) をもって判断したが、賛成が何%なら進めるつもりだったのか。②中学校は継続となったが、少子化が進む中で今後どう検討するのか。	①アンケート実施は議会一般質問で求められたことが契機。町としては当初は考えていなかったが、住民・保護者の考えを把握する必要があると判断。賛成割合の基準は明確に決めていなかったが、「過半数があれば」程度の感覚はあった。一方で「過半数だけで決めてほしくない」という声もあり、結果 (西側も含め各学区で状況が違う) を踏まえて総合判断し、いったん見直すとした。②中学校は当面継続 (教育委員会も同様の意向)。ただし将来さらに減少するため、令和 15 年度頃に厳しくなる見込みに触れ、保護者の意向や配置場所を含め改めて検討が必要。
2	今日の結果 (小学校は東西 1 校ずつ、中学校は継続) は理解したが、将来的に中学校も統合 (1 校化) する考えはあるのか。	子どもの数は減少しており、最終的には小中一貫校が必要との認識。ただし「いつまでに」とは現時点で決めていない。中学校は単学級化により教育環境 (切磋琢磨する環境、部活動など) の面から、2 学級ある方が望ましいため、将来的に 1 校化が望ましいとの考である。
3	①学校再編検討の発端 (中学校の生徒数減でクラス替えができなくなる懸念) からすると、今回「中学校をそれぞれ残す」は課題の先送りではないか。野間中が単学級 (1 クラス) になるのはいつ頃の見込みか。②中学校をそれぞれ残すと決めた理由は何か。	①単学級になる見込みは「令和 2 年度生まれの子」が入学してくる時期を踏まえると、令和 15 年度に中学校が単学級になる見込み。②中学校を残す理由は、東西で小学校が 1 校になるため、まずは各小学校と中学校の連携を進めていくため。(教育長) 先送りの面があることは認めるが、令和 15 年度の単学級化を目安に、単学級問題や部活動の選択肢等について保護者と話し合い、統合するかどうか・場所の問題も含め検討していく。期限を区切って断言する進め方は混乱を招くため、急ぎつつも丁寧に議論していく。
4	中学校が 2 クラスでも少ないと感じる。将来 1 クラスになると競い合う環境や人との出会いが少なくなるのが不安で、町外の園・学校を選ぶ動きもあり得る。小中一貫校を期待していたので残念。	再編検討の発端は「中学校が単学級になってしまう」ことへの懸念であり、競い合う環境の必要性は認識している。中学校は統合してほしいという声もあり、町としても 2 クラス以上が望ましいと考える。今後は行政主導だけで進めるのではなく、保護者と話し合った上で統合の是非や場所の決定を進めたい。令和 15 年度の単学級化は一つの目安だが、期限を切る進め方は混乱を招くため、急ぎながらも丁寧に議論していく。
5	小学校は令和 13 年度に統合で決定としても、中学校は令和 14・15 年度に向けて統合も含めて庁内で話し合っていくイメージなのか。	小学校は令和 13 年度に統合していく方針で当面この形で進める。中学校については、統合していくのかどうかを含め、保護者としっかり話し合っただけで検討していく。
6	学校再編の出発点は「野間中が単学級化し、クラス替えができない」ことだったはず。今回「東西で小学校 1 校ずつ・中学校は当面残す」だと、出発点の問題が解決されないのではないか。	出発点のご指摘のとおり「野間中が単学級化する懸念」+小中学校の老朽化。複数校を建て替える財力がなく、一貫校で一つ作る発想だった。その後、少子化が極端に進行し (例: 令和 5 年度に 2 学区で出生 3 人という状況も) 中学校問題以上に小学校側の少子化に焦点が移った面がある。東西案は保護者アンケートだけでなく地域の思い等も総合的に判断。中学校は「当面残す」としたが、複数学級が望ましい声もあり、中学校は中学校の問題として引き続き検討する。期限を区切った進め方で混乱を生んだ反省があり、保護者と丁寧に議論して方向性を決めたい。
② 防災・避難および閉校後施設の活用に関する質問と回答		
7	布土小が津波時の緊急避難場所になっている。廃校になったら避難はどうなるか。	防災機能は維持する考え。河和南部小の例のように、廃校後も体育館・校庭は避難場所等として活用でき、入居企業とも防災協力 (炊き出し、教室利用等) を得ている。布土小も同様の方向で考える。

8	<p>①小中一貫校を前提に考えていたので、今日初めて聞いた内容あった。②「令和13年度までに統合していきたい」という話は決定事項なのか。今後変わる可能性はあるのか。③統合で閉じる学校の敷地・校舎・体育館・校庭は今後どう活用するのか。</p>	<p>「令和13年度までに小学校を統合していく（東西で小学校1校ずつ）」は決定事項として捉えてよい。既に廃校となった河和南部小は企業に活用してもらっている。今後閉じる学校（例：布土小等）についても、民間活用を働きかけたい。体育館・校庭は町の施設としてスポーツ開放等に活用し、災害時は避難所・避難場所（車中泊等含む）として、これまで同様に防災機能も活用できるようにしていく。決定事項として捉えてよい。</p>
<p>③ 大学連携・特色ある教育および地域の魅力づくりに関する質問と回答</p>		
9	<p>暗い話が多い。施設整備は先送りでも、オンライン活用などで、大学と連携し魅力ある教育を前面に出してPRし、子育て世代が集まる地域にしていく発想が必要では。</p>	<p>全く同感。施設整備は先送りになったが、魅力ある教育は進める。町内に日本福祉大学・附属高校があるのは強みで、連携していく。視察した他市の小学校の特色ある教育（個別最適・学び方の多様化等）も参考にしつつ、教育委員会の理解も得ながら取り組む。</p>
10	<p>「大学との連携」とは具体的に何をするのか。</p>	<p>既に連携の積み上げがある。例：トワイライトスクール（放課後児童クラブで実施）、大学生が週1回程度町内小中学校に来て学習支援や児童との活動、大学教員が教職員研修の講師、パラリンピック教育（ゼミ学生も同行し支援）、特別な支援が必要な子への専門的助言、家庭背景による困難事例への支援視点の提供等。今後も継続し、さらに何ができるか協議していく。</p>
11	<p>①初の「日本福祉大学と連携した小中一貫校」構想が現在は「統廃合」へ下がっており失望している。②今後、日本福祉大学との連携を具体的にどのように進めるのか。③大学があることで国庫補助金が出ると聞かすが、美浜町として現状どのような活動をして、どれだけ補助金を受け、どう使い、今後どうするのか。</p>	<p>①大学連携の小中一貫校を実現できなかったことはお詫びする。進める意思はあったが、町財政を危うくしてまで進められないと判断した。②理事長と町長で話をしており、今後も連携して魅力ある教育環境をつくる方向で確認している。学部移転の話があっても、代替の学部提案等も含め建設的に協議しているが、大学内部調整もあり具体は答えられない。③大学があることによって市町村に国庫補助金が入る制度はない。学生が住民として居住することで地方交付税に影響する面はあり得るが、「大学があるから町に交付金来る」わけではない。</p>
<p>④ 児童数・学級数・教室数および小学校統合時期に関する質問と回答</p>		
12	<p>①町全体の児童生徒数は何名か。県費教員数、町費（支援員等）の人数は。再編後は教員数・支援員数はどうなるのか。②東側/西側の「現在の学級数」を教えてください。</p>	<p>①小学校児童数は840名（令和8年2月1日現在）。将来推計として、住民登録ベースで対象学年相当を集計すると528名（2月10日現在の集計）。教員数（県費）・町費職員数は手元資料がなく、学級数等で変動するためこの場で正確に答えられない。必要なら学校教育課へ問い合わせで回答する。再編後の教員数も学級数に連動するが、具体人数はここでは示せない。（教育長）②東側：布土小は全学年1学級、河和小は1～5年が2学級、6年は3学級。西側：3小学校とも全学年1学級。</p>
13	<p>「令和13年までに」と言うが、具体的に何年ごろ統合になるのか。今すぐ統合できないのは教室が足りないからか。西側も同じか。</p>	<p>現状、（例：河和小に布土小児童を入れる等）今すぐは教室数が不足する。児童数が減って教室余裕が出る見込みから令和13年度ごろを想定。西側も同様。無理をすれば令和12年度もあり得るが、統合までの交流活動等も踏まえ東西同時に令和13年度を基本に考えている。</p>
14	<p>資料に「令和13年度までに小学校は東西で1つ」とあるが、令和10年でも間に合うのでは。</p>	<p>資料の「統合検討」は以前の表現で、現状は「検討」ではなく統合を進める方向。統合を早めたい声はあるが、単純な児童数だけでなく、特別支援等の教室配置を含めると現状では教室が足りない。整備も早く令和12年度が限界で、交流・教職員人事などソフト面も考慮し、令和13年度を基本としている。</p>
15	<p>統合時期のターゲット「令和13年度」について</p>	<p>前倒しが難しい主因は、特別支援学級等で教室数が不足しており、現状では</p>

	て、もっと前倒しできないのか。資材高騰等を踏まえ、早く進める余地はあるか。仮設プレハブ等も含め、町として前倒しの考えはあるか。	(例：河和小に布土小統合等) 物理的に入りきらないため。無理をすれば部屋を区切る等で可能性はあるが、教育委員会として避けたい。東側は少なくとも令和13年度まで余裕が出ない試算。西側は令和12年度の可能性もあるが、東西同時に進めたい。統合までに校舎改修(河和小の老朽化対応)や、上野間小への放課後児童クラブ整備、統合前の交流活動等も必要。プレハブは可能だが、数年後に不要化し得るうえ、資材高騰下で費用が大きく、むしろ改修や特色ある教育、スクールバス等へ充てたい考え。
16	①今回の「令和13年度までに(東西に再編)」はこれで変わらないのか。②町の方針を議会に十分説明し議論した結果なのか。今後の進め方をしっかりしてほしい。	資料にある「令和13年度までに東西(小学校は河和小・上野間小へ)へ統合していく」方針は変化なく決定事項である。
17	今回説明の「東と西で小学校1校ずつ/中学校も当面維持」は、最終結論・決定事項と理解してよいか。	今回の決定は「当面、東西の形でいく」という意味で最終決定。将来さらに児童数が極端に減り複式学級等の状況になれば再検討が必要となり得るが、当面は小学校は上野間小・河和小で進める。
18	①「日本福祉大学と連携した特色ある教育を推進」とあるが、今後も大学と協力体制はできるのか。②資料に「統合検討」とあるが、現段階は決定でよいか。③(確認) 令和13年度までに、東は河和小、西は上野間小という理解でよいか。④統合に向け、子どもたちが徐々に慣れるための交流(合同行事等)を小学校でも進めるのか。⑤(質問) 行事時の駐車場不足(特に上野間小)への対策は。	①大学とはその都度協議しており、今回結果も理事長と町長で確認済み。今後も連携して「魅力ある美浜の教育」を創造していく。②「統合検討」はアンケート段階の書き方で、現段階は決定。③東西の小学校体制で進める。④統合に向けて、5年生キャンプなど交流活動を計画的に進めるべきと考える。(教育長) ⑤河和小は寺の駐車場を行事で借用して対応している。西部(上野間小側)は今後検討が必要。
⑤ 進め方・意思決定および説明・情報発信・アンケートに関する質問と回答		
19	(意見) これまでの進め方・選挙公報との関係、箱物で他施策(道路等)に金が回らない。住民目線に戻してほしい。	厳しい指摘として受け止める。選挙公報には明記していないが、(当時配布した通信等で)「魅力ある小中一貫校整備」を記載した経緯がある。令和元年度に決まった整備計画の継続性も背景。結果として反省点があり、今後も生活環境整備等に取り組む。
20	町民が知る前に新聞で情報を知ることが多い。新聞社と繋がっているのか。やめてほしい。	事前に新聞へ決定事項を流す意図はない。基本は議員→住民→報道の順を守るつもり。行事の周知(参加促進)として事前に知らせることはあるが、方針決定の情報はその順で行う。至らぬ点があれば今後も指摘してほしい。
21	中学校が将来1校になる可能性があるなら、今回の教訓として、保護者への丁寧な説明やアンケート等を念入りにしてほしい。また、現職教員の意見聴取はしたのか。	保護者の意見を丁寧に聞くべきという点は同意。教員の意見聴取については、具体的に先生方から意見を伺うことはしていない。(教育長)
22	アンケートに答えていない層(例：未就園児家庭等)の意見も含め、何年かに1回、保護者と町長が話す場をつくってほしい。アンケートはもっと早い段階で保護者中心に実施してほしい。	アンケートは僅差であり重く受け止めている。町長として、子育て世代と直接話したい。PTA役員だけなど、大人数の場合だと難しい等の課題があるが、少数の場合づくり等、声が届く仕組みを工夫したい。議員も地域の声を吸い上げる立場であり、段階的に意見を拾う形を検討したい。
23	学校は地域の核。保護者アンケートだけでなく、住民の声をどう拾うのかが必要。	学校が地域コミュニティの核である点は認識している。一方、極小規模校(例：学年3人等)での教育環境も課題で、総合判断が必要。住民全体アン

		ケートは住民投票級となり費用・方法面で難しい。説明会の場で意見を聞くほか、ネット、パブリックコメント等もあり、広く拾う方法は難しいが工夫していきたい。今回は保護者の意見を重視する。
24	数年前に「消滅可能性都市」と報道された中で、小中高大が同一敷地で学べる小中一貫校構想は町おこしの起爆剤として期待していたため、なくなったのは残念。一方、地域に小学校がなくなると、転入や定住の意欲が下がるので、東西1校ずつ残す今回の決定は安堵している。ただ、今後また統合議論が出ると思うので、毎回「丁寧に説明する」と言うなら、説明・情報発信が不十分だと感じる。実際、1月の説明会では10～15分の説明で「アンケートが最終決定」かのように感じ不安になった。さらに、ホームページの学校再編情報が令和5～6年頃で止まっているように見える。今後は、重大プロジェクトの際にはもっと細かい説明と、ホームページ等での継続的な情報発信の強化をしてほしい。	指摘のとおりで、情報発信・説明の在り方は課題。住民説明会を平日夜・休日昼などで実施してきたが、特に子育て世代の参加率が低い事情があり、保護者向けに集めた方が来やすい一方、集まる機会の確保が難しい。今回（1月の場）が短時間（10～15分）になったのは、方針決定後の予算編成等の時間制約も要因で、本当は長く説明したかったが十分にできなかった（※言い訳になるが事情があった）。PTA役員会等でも説明してきたが、参加者が広がらない点も課題。加えて、日本福祉大学等との協議のように、途中経過として公表できない内容が含まれる場合があり、外からは「いきなり決まった」ように見えてしまう面があることは申し訳ない。今回の件を教訓に、今後はより丁寧に進めたい。5～10人規模でも話をしたいという要望があれば、日程調整して説明の機会を設けるので活用してほしい。
25	計画が変わること自体は悪いことではない。財政・児童数減など状況に応じて、子ども目線で時間をかけて議論し、ハードだけでなくソフト面も含めて最善を検討してほしい。	指摘のとおり。今後も議論を重ねていきたい。
26	地域あつての学校。保護者アンケートだけでなく、これまでの経緯も踏まえ、町全体での地域アンケート等、意見を求める機会をつくってほしい。	同様の意見は複数受けている。住民投票は費用も大きい。一般的にはパブリックコメント（HPや窓口での募集）等で決定に対する声を拾う方法があるため、検討したい。
27	①河和中学校既存校舎活用案が「賛同できない」が多かったため東西案へ移ったと聞いた。なぜ賛同できないのか、理由を保護者に聞いたのか。②「賛同できない」多数だからやめるのではなく、意見を聞いた上で再検討してもよいのでは。③旧南部小の統合経験者（保護者）からも当時どうだったか聞く機会があるとよい。	大学敷地内案は財政的に困難となり、他候補地も金利上昇等で難しい中、既存校舎活用で段階整備なら小中一貫の目標が可能と考え提示した。一方で、皆様の意向確認を十分にしながら進められていない点は指摘のとおり。聞こえてくる声として、西部は児童が一定数見込める中で「西から小学校がなくなること」への危機感が強かった。賛否が拮抗し、西部全体の反対が強い中で強引に進めるのは避けるべきと判断し、今回は集約を見送った。
28	アンケートの取り方が悪かった可能性がある。賛同できないの中身は「河和中での小中一貫」反対ではなく、統合そのものの反対が混ざっているのでは。アンケート時期で回答者が変わった可能性もあり、このアンケートだけで東西方針が決まるなら住民の認識とズレる恐れがある。	指摘は理解できる。実際、保育所関係等（就学前層）では賛成がやや多い。一方、小1～小3では中学受験や多感な時期に統合を避けたい声もある。それでも西部の反対比率の高さを踏まえ、今回は見送る判断とした。

29	<p>①町長就任後、学校再編方針が「日本福祉大学→中学校跡地→河和中」など二転三転しており、ぶれすぎではないか。(意見) ②河和中中学校敷地は東南海地震・津波の観点で不安。高台にすべきでは。(意見) ③財政(ふるさと納税・クラファン等)も含め、町長として何をしてきたのか見えない。(意見)</p>	<p>①二転三転したことは事実。町長就任前(令和元年度)に決まった計画をベースに、小中一貫校を進める意向で取り組んだ。大学連携は魅力があったが財政面で断念。次に「河和中敷地内に小学校」の案を示したが賛同が得られず断念。②津波想定では、最大想定でも河和中グラウンド隅で30cm程度、校舎はグラウンドより1~1.5m高く「想定上は心配ない」と説明してきたが、不安は理解できる。これまでの検討・議論の積み重ねは無駄ではない。結果として東西の方針に落ち着いたのは民意。子ども施策(18歳まで医療費、給食費等)など取り組んできたが、届いていない点は反省し今後努力する。③今回は学校再編の説明会のため、町づくりの話は控える(課長)</p>
30	<p>①6会場すべて参加。中学校再編が白紙(先送り)で残念。(意見) ②決定プロセスが「日本福祉大学しかない→河和中しかない→今回」など短期で覆り、議会・教育委員・町民がどこまで意思決定に含まれていたのか疑問。(意見) ③保護者アンケートが「賛同/賛同しない」の2択で、意見を正確に拾えていないのでは。(意見) ④中学校を残して小学校との連携を図るメリットが、継続のデメリットを上回る根拠を説明してほしい。(質問) ⑤5年後10年後を見据えた教育方針(ビジョン)をどう描くのか。基本構想・基本計画は前提が変わり見直しになるのでは。(質問)</p>	<p>①、②指摘を真摯に受け止め反省。③アンケートは「それだけで決めた」わけではなく、保護者の声を聞いたうえで判断した。議会からアンケート提案があったことも背景だが、結果論の言い訳はしない。④、⑤小学校は、地域に学校が必要という住民の思いも強く、統合は難しい面がある。当面は東西で維持。子どもの数の推移が重要。西部は今年の出生が25人で、今後もしばらく各校1学級規模が続く見込み。さらに減れば統合検討が必要。中学校は「待たなし」と認識。今回の反省(行政主導・年次目標で無理に進め二転三転)を踏まえ、保護者と丁寧に話し合い、場所も含め方向性を決めたい。結論としては「中学校は一つが望ましい」と思うが、期限を区切って断言は難しい。(教育長) 中学校を残すと小学校との連携が図りやすい(9年間を見据えた系統立て/ふるさと学習等の推進、東西に中学校が残ることで指導方針の連携がしやすい)と考えた。ただしデメリットもあり、今後意見を聞きながら検討。アンケートに「小学校は東西/中学校は一つ」といった選択肢があってもよかったとの認識もある。</p>
31	<p>①今回の「賛同できる/できない」はアンケートというより投票。賛同できない理由や、どうしたら賛同できるかを把握して反映すべき。(意見) ②賛同できない人が多いと、町外へ出る/中学から他市(半田中高一貫校など)を選ぶ等の動きも出かねない。(意見) ③賛同できない理由の把握、フィードバックの仕組みを考えてほしい(共働きでバスに乗り遅れた場合の対応等も含む)。(要望)</p>	<p>①理由を聞かなかったのは、理由収集・精査して方針決定する時間がなく、乱暴な形になったことをお詫び。②「なぜ賛同できなかったか」の意見集約は今後進める。教育委員会を通して保護者の賛否理由を集めたい。③住民からも広く意見募集する形を検討していく。</p>
<p>⑥ 学校施設・修繕および給食・プール等に関する質問と回答</p>		
32	<p>給食センター(老朽化していると思うが)について、今後の計画はあるか。</p>	<p>小中一貫校の場合は新設校側へ移す想定だったが、東西統合案となるなら給食センターは当面現施設で維持する。必要な改修(空調・調理設備等)は実施していく考え。(部長)</p>
33	<p>これまで「小中一貫校になるから直せない」と言われていた(例:野間中プールが汚い/空調がない部屋がある等)。中学校が残るなら、修繕してもらえるのか。</p>	<p>残していく学校(中学校・各小学校)については、必要な修繕を予算の範囲で行う。ただし中学校プールは、野間中だけでなく河和中も老朽化しており、改修には多額の費用がかかる。水泳授業は学習指導要領上「必須ではなく、事情により実施しなくてもよい(救急法等は必要)ため、他市町でも廃止例がある。(教育長) 今後、中学校の水泳授業は廃止方向も含め検討し、小学校段階で室内プール(日本福祉大学のプール)を活用する方針。な</p>

		お、来年度から小学校5校が同プールを利用予定。
⑦ 通学・スクールバスおよび上野間小の選定理由に関する質問と回答		
34	保育所統合は人数減なら理解。東西案になったことで通園・通学の方向性が見えた。西側（奥田、野間）が上野間統合をどう受け止めるか気になる。スクールバスはどうか。（意見を含む）	学区は基本的に従来どおり。布土はスクールバス。上野間小は高台で津波面の安心、築年数が新しい点から候補と説明。運行は野間→奥田→上野間の順で乗車するなど効率化を想定。保育所は送迎事情等を踏まえ、保護者が選択してよい。
35	西側を上野間小学校へ集約する理由を詳しく。単に新しいからか。位置的には西の北端で不利では。将来的に東西をまとめ小中一貫校を作る予定があるので“つなぎ”として上野間なのか。	上野間小を選ぶ理由は、①最も新しい、②高台で防災面（津波懸念）が相対的に強い、③スクールバス運行は中央よりも端の方が、野間→奥田→上野間のように拾っていく形で効率化でき、無駄が少ないため。これらを総合的に考慮した。
36	東西で小学校1校ずつにまとまるのは安堵。要望として、地元の子どもが地域の学校へ通える方が地域も明るくなる。災害面では上野間が有利でも、奥田小+上野間小の2校（例：野間小を奥田小へ）という形も考えられないか。あわせて、そもそも建設費が当初十分見込まれていなかったのでは。	建設費については、（令和10年度統合想定の中で）就任前は場所未決で費用も見えにくかった。日本福祉大学案決定後、経験則で概算を置いたが、実際に業者試算をすると建設費高騰や追加対策（例：災害関連対策等）で費用増が判明した。学校の配置要望は理解するが、上野間は出生数が少なく（例：上野間がひと桁）、学年6人だと同性の友人が極端に少ない等の懸念があるため、ひと桁学年は避けたい。よって上野間へ統合の方針を進めたい。
37	西部小学校の統合について、奥田小は福祉大学と交流等をしていると思うが、なぜ奥田ではなく上野間小学校なのか。大学連携はどうなるのか。	大学連携（トワイライトスクール等）は学童保育の中で行っており現状は奥田小にあるが、上野間小へ移る場合は上野間小に学童保育を整備するため連携は継続可能。その他の大学連携も各校で実施しており、距離は遠くなるがスクールバス等で学生を運ぶなど連携を図る。上野間小を選んだ理由は①高台で津波不安が少ない（西部はより高い津波予測もある）、②築年数が新しく改修必要が比較的少ない、③スクールバス運行は野間から順に乗せる方が効率的であるため。
38	なぜ上野間小に決定したのか（通学負担の観点）。最遠方（小野浦等）の低学年が毎日スクールバス通学する負担（乗車時間、車酔い、天候、トイレ等）が心配。「真ん中の地区」の方が負担軽減になるのでは。災害（津波等）は美浜全域が危険で大差ないのでは。子どもの視点で検討してほしい。	上野間小は海拔10m以上の高台であり、津波等の災害を考えた場合に望ましいという判断は変わらない。「どこでも同じ」とは考えていない。スクールバスについては、既に河和南部地区が令和4年度からスクールバス2台で河和小へ通学しており、当初不安はあったが上級生が下級生を支える等で安全に登下校できている。現時点で大きな不安が生じているという話は聞いていない。
39	南部のスクールバス通学には「困った面」も多い（バス停までの送迎、乗れない子、車で送る子が多い等）。良い面だけでなく課題もきちんと周知してほしい。野間校区の子が上野間まで行くのは負担が大きい。自分の足で通えない学校に小さい子が行くデメリットも含め、地域でどう支えるか考える必要がある。	南部学区の保護者からは「友達が増えて子どもが喜んでいる」等の声も聞いており、統合に賛成した背景にもなっている。一方で通学面の懸念があることも理解するが、子どもの数が大きく減っている（例：学区で今年生まれた子が5人程度）中で、通学の課題と比較しつつも「適正な教育環境の確保」に重きを置きたい。そうした背景で再編を進めている。
⑧ 保育所・子育て施設および園と学校の整合に関する質問と回答		
40	多世代交流施設の話が出たが、布土保育所等	多世代交流施設は、乳児保育等の受け皿・子育て支援機能等を整理して整備

	がなくなる跡地を活用する考えは。保育所の統合はどうなるのか。	した。布土保育所は老朽化と園児減により、令和9年度に河和保育所へ統合の方向。西側も合同保育が増えるため統合が必要で、(例として)老朽化する野間保育所を奥田へ統合し、将来的に上野間へ移す。
41	小学校・保育所・公民館を一体化した総合施設の発想はどうか。保育所を選べるなら、小学校も選べるようにできないか。(意見)	多様な選択肢の考えは理解。ただ、施設を一体化しても学年人数が増えるわけではない。また行政運営・財政面から、少人数校を複数維持し手厚くするのは難しい。小学校選択制は、例外的措置はあり得るが、自由に選べると在籍が極端に偏り、地域の分断等の懸念がある。
42	保育所(令和9年度に野間保育所統合の話)では奥田の子と一緒に育つのに、小学校で野間小へ戻るのは逆行。段階的にでも、まず奥田小と野間小を統合し、最終的に令和13年度に上野間へ、という考えはあるか。	物理的に可能か検討が必要。加えて、学校統合は大きな作業で、短期間(令和13年度までの残期間)に2回統合するのは教育委員会として厳しいという整理がこれまでである。子どもにとって短期間に2回「閉校」を経験することへの懸念もある。保育所の合同保育が増え、小学校で分かれる課題は布土でも同様の指摘がある一方、統合時期を遅らせると小規模(3人、5人等)が積み重なり、保育所側も合同保育が常態化する。施設老朽化もあり、統合方針を進める。なお西側は保育所も学校も同規模で、本来は一気に一つにしたいができないため、(保育所は)まず野間→奥田、将来的に上野間保育所へ、奥田にはわかば園を残す計画。
43	①令和13年度までに、というが早まる可能性はあるか。②布土保育所がなくなり河和保育所へ行くと聞く。保育園は河和でも小学校は布土のままになるのか。	現状、教室数が足りない。東部は河和小で令和13年度のシミュレーションでやっと入れる見込み。特別支援や通級、外国籍児童等で教室需要があり、前倒しは難しい。②現状その想定である。保育所は合同保育等の事情で統合を進めるが、小学校は教室不足のため同時統合はできない。一定期間は分かれる。
⑨ 財政・事業費および補助金・調査費・見積に関する質問と回答		
44	小中一貫校にすると国の補助が増える、教員数削減が狙いではないか。箱物行政への懸念。	小学校単体・中学校単体・小中一貫校でも交付金制度は基本的に同じで、統合するから交付金上がるわけではない(文科省で確認)。箱物は必要最小限に。老朽化施設の更新が課題で、制度(交付金・交付税措置等)も活用しつつ整備してきた。統合で学級数が変われば必要教員数は結果的に変動するが、教員削減を目的に再編を考えたわけではない。
45	東西に分ける案として東西で複数校を残す形にした場合、費用はいくらか。	概算はまだ出していない。ただし、河和小は老朽化が進んでおり内装等の改修が必要。また西側では放課後児童クラブ(現:奥田小)を統合先(上野間小)へ移す場合、新たな整備が必要。スクールバスも必要になる想定。
46	「建設候補地の評価および課題の比較」等、詳細資料作成にいくらかかったのか。見通しが甘かったで済ませないでほしい。	今年度実施した検討(調査等)は約500万円。どの計画でも調査は必要で、内部試算だけではなく外部調査も伴う。(課長)結果として計画変更になっても、調査自体が無駄とは考えていない。
47	東西に統合することで当初より予算が抑えられるなら、浮いた分を教育の充実(人員配置等)に充ててほしい。浮いたお金をどう使うのか、子どもに返してほしい。	統合のスケールメリットや建設費の試算はしている。建設をせず統合のみなら費用は抑えられる。ただし河和小校舎は築50年以上で大規模改修が必要。また放課後児童クラブ(上野間新設や河和の定員拡充等)にも充当が必要。特色ある教育についても教育長と議論しており、保護者を交えて検討していく。
48	8年間の再編(小中一貫建設)プロジェクトで、見積もり等を含めどれくらい経費がかかったか。	委託したものとして、今年度の候補地検討委託が500万円、昨年度の小中一貫校基本計画策定が2,200万円である。※全てを委託しているわけではない。(課長)
49	令和5年度に「福祉大に小中一貫校(60億)」	学校を維持した場合の費用は、理想どおり改修すれば莫大になるという試算

	<p>案が示され、検討すると100億になり断念となった。では、学校を複数残して修繕しながら維持していく方が、結果的に100億以上かかるのでは。維持・修繕を続ける場合の概算は出ているのか。町全体の見通しも含め、早く示してほしい。</p>	<p>は過去にもあるが現実的には不可能で、やれる範囲で修繕していくことになる。一方で新設すれば返済（公債費）が発生し、使い続ければ修繕費が発生する。7校が4校になることで3校分の維持経費がどれだけ縮減できるかは計算しており、その効果を新しい教育や学校修繕に充てていく。今後使用する河和小は老朽化しており改修が必要で、その経費も含め詳細は現時点では示せないが、早急に計算し、皆様にお示ししていく。経緯としては、当初は大まかな単価・補助等で試算したが、補助単価や交付税措置等を精査し、河和中敷地内での整備なら返済可能と見込んだ。しかし金利が1%→2.5%（計算上2.8%）へ上がり、物価上昇等で財政負担が増す中、返済が厳しいと判断。中学校敷地内に小学校のみ整備する案はスケールメリットで返済可能と考えたが、西部保護者等から賛同が得られず、今回の方針に至った。</p>
<p>⑩ 地域・コミュニティおよびまちづくりとの関係に関する質問と回答</p>		
50	<p>地域にとって学校は「心の故郷」。なくすと地域の活力が落ちる。町はどう捉えているのか。</p>	<p>学校は地域コミュニティの核である点は理解。一方で子どもの学び舎として、極小規模（学年3人等）の教育環境をどうするかが重要で、これが統合検討の出発点（令和元年度計画の背景）である。</p>
51	<p>①東西1校ずつ・中学2校継続になり安堵した。②ただ、福祉大敷地に小中一貫校新設案が出た経緯が納得できない。なぜ令和5年度秋にあの案が出たのか。方針→住民意見では順番が逆では。</p>	<p>令和元年度に小中一貫校の計画ができ、方針に基づき河和南部小は令和4年4月に統合。町長就任（令和5年4月）時点で「令和10年までに整備」の計画があり、説明会が十分でなかったため早期に方針説明を進めた。場所決定を急ぐ中、6ha程度の用地が必要と見込み、町内で確保困難だった。大学との協議で敷地を無償で借りられる可能性や施設活用（武道場・プール等）もあり、大学敷地案を示した。結果として見積りが想定を大きく超えた（要因に土砂災害等もある）ため、持続的に困難となり見直しに至った。行政としては大きな方向性を示し、意見を受け、最終的に議会で判断という流れが基本と説明。</p>
52	<p>学校再編は地域衰退とも関連する。南側の道路等も含め、地域が「関係ない」とならないよう、町として地域全体の将来を考えた施策（道路整備等）も進めてほしい（意見）。</p>	<p>本日の議題とは異なるが、都市計画道路等の進捗について、3/28に一部供用予定、また、狭隘箇所解消・災害時の代替路線確保の意義を説明。地域衰退が根本課題であり、施設はリニューアルしつつ、教育内容で魅力を高め評価される工夫である。</p>
53	<p>中日新聞の見出し「小中一貫校断念」について、「一旦やめる」のか、将来的に（10～15年後など）小中一貫校を再検討する意思があるのか。また第6次総合計画へ位置付ける考えはあるか。あわせて、これまで「福祉大学内」「河和中敷地」など報道が先行し、議会・校長会・区長会等への説明が十分だったのか。さらに、河和中敷地案が別棟で“本来の小中一貫”に当たるのか疑問。人口減で将来複式も懸念、小学校は東西1校ずつ残し、中学校は先に統合すべき。総合公園（総合計画上の教育スポーツゾーン）等も含め再考してほしい。</p>	<p>見出しの「断念」は記者の表現で、町の説明は「現段階では一旦先送り／今回提示した整備計画案は断念」。過去の「決定」との報道も、議会答弁（町の方針+保護者意向確認）をどう書くかは記者判断。方針が変遷した事実（福祉大→河和中→アンケートで断念）はある。今後も児童生徒減の中で、中学校統合や将来的な東西の在り方の検討は必要との認識は変わらない。一方、今回は「地域に学校が必要」という声と、学校規模の成立性のバランスで東西に残すと判断。総合公園案は、学校は原則市街化区域に設置が前提で、調整区域への設置は難易度が高い。加えてスクールバス増、周辺整備等で事業費面も厳しい。総じて「小中一貫校を目指す考え自体は変わらない」。</p>